

平成20年 イタボガキの種苗生産が終了

イタボガキの幼生



カキ類は卵で生まれる卵生型（マガキ、イワガキ等）とD型幼生で生まれる幼生型（イタボガキ、コケゴロモガキ等）があります。イタボガキは幼生型です。生まれた（産仔）時の幼生の大きさは約0.15mmで他の貝類に較べると大きいといえます。

いつ生まれる

香川県でのイタボガキの産仔期間は6月上旬～9月上旬ですが、親貝を早い時期から加温飼育していたので、今年は5月7日から産仔が始まりました。この幼生を用いまして1mmサイズの付着稚貝を生産しました。

餌は



餌は香川県の場合は室内で培養したパプロブルーテリーとナンノクロロプスという植物プランクトンです。幼生が大きくなるにつれて餌の量を増やしていきます。

泳いで、歩いて、付着

幼生は当初浮遊生活をしているのですが、3週間前後飼育すると0.15mmから0.3mm以上に成長します。この時期になると足糸、足、眼点といわれる器官が発達し、やがて貝殻などに付着します。付着すると、一生そこから動くことができませんので、付着する前は泳いだり、歩いたりして付着に適した場所を探しているようにもみえます。



1.0 mm前後に成長した稚貝



貝殻に付着した稚貝



付着前の浮遊幼生

今年生産できた数量

平成20年 イタボガキ種苗生産数 (1mmサイズ)

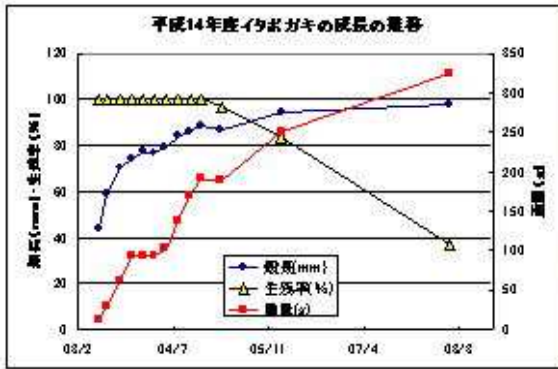
	収穫稚貝数 千個体	採苗器設置時収容幼生数 千個体	付着稚貝数 千個体
5月14日生まれ	7000	1843	152.2
6月26日生まれ	6535	2520	799.1
7月14日生まれ	3900		83.5
計	17435		1034.8



垂下養殖

本年度は表に示したように1mmの大きさで約100万個体生産することができました。今後はこれらの付着稚貝を大きくして、養殖や、放流することによって増やしていく予定です。

平成14年に生産したイタボガキのその後



最初に述べましたが、平成14年から種苗生産を実施していますが、そのとき生産したイタボガキの成長状況を図に示しました。満6年経過した時点で平均殻長97.2mm、平均重量325.1

g (260~390 g) に成長しました。生残率は36.7%でした。なお、天然で漁獲され、水産試験場飼育している最も大きいものは、殻長130.5mm、重量1009.2 g のものがあります。

[トピックスにもどる](#)